

ブラキムラとめぐる！仙台城下町ボヤージュ 【2025年6月3日放送分 行人坂／澱橋通】

毎月第1火曜日に放送しています。歴史家で街歩きの達人・ブラキムラこと木村浩二さんと、旧城下町に88本ある石柱＝辻標から歴史の痕跡を探る旅です。街歩きのお供には、仙台市役所1階の市政情報センターなどで販売中の冊子、その名もズバリ「辻標」が便利です。88本ある辻標の場所や周辺の歴史が、写真とともに分かりやすく解説されています。

- 今月は、地下鉄東西線の「国際センター駅」西側出口から街歩きスタート。ひきつづき、仙台城近くの歴史を深掘りして行きます。



- 駅近くのT字路に早速、コーナー56本目となる今月の辻標があります。「行人坂／澱橋通」です。澱橋通は、ここから北側の澱橋へ至る通りです。川内と広瀬川の対岸はかつては渡し舟(支倉渡戸)、その後は支倉橋で結ばれていました。元禄7年(1694)の洪水で支倉橋が流されてしまうと、少し上流の流れが緩い場所＝澱を選んで、文字どおり澱橋がかけられたのです。辻標のもう片面・行人坂は、澱橋通から川内北キャンパスに左折した上り坂。かつてここに庵を結んだという行人＝修行僧にちなんで、こう呼ばれています。仙台城二の丸の北側にあり、この先の川内山屋敷まで続く通りです。

- さて、辻標からほど近い所を沢が流れています。これが前回も少し触れた「千貫沢」です。青葉山から広瀬川に流れ落ちる細い沢で、仙台城北側の天然の内堀の役割をはたしていました。私と木村浩二さんは、たいへん野趣あふれる沢沿いの道をさかのぼります。ここは歩きやすい靴で行かれる事を強くオススメします。しばらく進むと、整然と積まれた石垣が見えてきます。藩政時代初期のものと思われますが、元々は沢を越える土橋の土砂崩れを防ぐために、石を積んだもののようです。石垣の中央が四角くえぐられ、沢が流れ落ちています。橋の上は二の丸への侍達の通勤路となっていました。



- もうひとつの侍の通勤路としてご紹介するのが、「扇坂」という坂です。川内萩ホルの東側、国際センターとの間に今では階段が整備されています。このようにアクセスしやすくなったのは、実は最近の話。2015年に国連防災会議が仙台で開かれた際、会場同士を結ぶために造られました。坂の下の方が扇状に広がっていたため、このように呼ばれたようです。藩政時代、二の丸に登城する侍達は、ここまでお供の者とやって来ては身だしなみを整えるなどしていたようです。木村さんによると、扇状の地形は多少人の手が加わっているのではないかとのお話でした。次回も、仙台城周辺の歴史を紐解いて行きます！お楽しみに。〈文・佐々木淳吾〉

